静岡市教員育成指標【保育教諭】

令和6年3月改訂

静岡市が目指す 教師の姿	**教育にひたむきな教師** ・教育・保育への熱意、使命感をもち、生涯を通じて学び続ける教師 ・静岡市立こども園が目指す子どもの姿「自己肯定感を高める子」「夢中になって遊ぶ子」「楽しん関わる子」「自分らしく表現する子」「明るく伸び伸び生活する子」の実現に向けて、実践的指導力を磨く教師 ・人とつながる人間関係調整力をもった教師

ステージ / 資質	着任時	基礎期 （初任～5年目程度）	向上期 （～中堅研程度）	充実期 （中堅研後）	深化期 （～定年及び再任用）
	教員としての 歩みを始める時期	教員としての基礎を確立 する時期	教員として自立し、 後輩教員の手本となる 時期	中堅教員として 園運営の中核を担う 時期	自己の専門性の更なる向上と 若手・中堅教員を指導する時期
素養	□「たくましく、しなやかな子どもたち」を育成するために、教育的愛情、人権意識、倫理観と責任感をもち、コミュニケーション力、想像力を働かせて人間性を磨いている。 □教育を取り巻く課題を前向きに受け止め、自律的・継続的に学び続けようとする。				
特別な支援を必要とする子どもへの対応 ／ 遊び指導力 ／ ○子ども理解 ○遊びの構想 ○環境構成 ○遊びの展開 ○評価と改善	□ 子どもの多様性を理解し、一人一人とつながりをつくろうとしている。	□ 子どもの発達を理解する。子どもの実態と背景を把握する。 □ 子どもを肯定的に見る。	□ 子どもの活動の意味を理解する。 □ 子どもの発達する姿を捉える。集団と個の関係を捉える。	□ 職員間の情報共有や家庭からの情報等、多くの目で子どもの状況や変化を的確に捉える。 □ 指導の経緯や多様な情報を総合的に捉えて子どもを理解する。	□ 子ども理解のための組織的な園内体制を作り、若手・中堅教員の子ども理解力の向上を支援する。
	□ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容と、指導法を理解しようとしている。	□ ねらい及び内容を明確にして保育する。	□ 適切で具体的なねらい及び内容を設定する。 □ 遊びのプロセスを意識した保育をする。	□ 入園から卒園まで、長期的視野に立って保育構想をする。 □ 小学校教育への接続を踏まえ、計画的・継続的に保育する	□ 高い専門性を生かして保育構想をしたり、若手や中堅教員に助言・指導しながら保育を行ったりしている。
		□ ねらいの実現にふさわしい環境を構成する。	□ 遊びの展開に応じた環境の再構成をする。	□ 園全体の教育・保育展開を意識し、他の保育教諭と協働して環境を構成する。	□ 地域や園の実態を踏まえ、園全体の環境構成の維持・改善に努める。
		□ 一人一人の遊びの状況を把握し、ねらいに向かう援助を適切に行う。	□ 遊びの展開に応じ、子どもの育ちを促す援助を意図的に行う。 □ 子どもの学びを価値づける。	□ カリキュラムマネジメントの視点に立ち、子どもの遊びの見通しや振り返りを共有して、園の実態に応じた保育を行う。	□ 園全体の教育・保育活動を俯瞰し、保育改善のアドバイス・指導や模範保育を行う。
		□ 自分の保育を振り返り、保育を見直す。	□ 保育の見直しを通して改善点に気付き、保育改善に生かす。	□ 教材や指導方法の研究と保育実践との相乗効果を図り、保育改善に努める。	□ 園全体の成果と課題を捉え、改善策を考えて実践する。
生活運営力 ／ ○在園年数・時間の違いへの配慮	□ 幼保連携型認定こども園として特に配慮する事項について理解しようとしている。	□ 在園時間の長い子どもに配慮し、活動と休息、緊張感と解放感等の調和を図る。 □ 子どもの様子等の引き継ぎを丁寧に行う。	□ 在園年数の違う子どもの発達や学びの連続性を考慮し、家庭や他の保育施設との連携や引き継ぎを円滑にして教育・保育展開をする。	□ 土曜日や長期的な休業中・休業後の適切な教育・保育について考えるとともに、家庭・保護者と情報共有をする。	□ 在園年数や在園時間の違う子どもへの配慮をしながら、園全体の生活時間・生活リズムをマネジメントする。
○健康・安全	□ 保育室内外の安全管理について理解しようとしている。	□ 清潔で安全な環境を整え、適切に管理する。	□ 疾病、感染症等の予防対策、アレルギー疾患についての知識・技能を持ち、適切に対応する。	□ 与薬、救急蘇生法、乳幼児突然死症候群など、重大事項に適切に対応する。	□ 園医、看護師、栄養士等を含めた全職員が相互に連携し、組織的かつ適切な対応を行うような体制を整える。
○特別支援	□ インクルーシブ教育の理念を理解しようとしている。	□ 特別な支援を要する子どもに対応する基本的な知識・技能を身に付ける。	□ 特別な支援を要する子どもの障害の特性を理解し、一人一人の教育的ニーズに応じた合理的配慮をする。	□ 特別な支援を要する子どもの障害の特性に応じて、計画的・組織的に対応する。	□ 特別な支援を要する子どもの障害の特性に応じて、若手・中堅教員の模範となって対応し、個別の支援計画及び個別の指導計画の作成等をリードする。
ICTや情報・教育データの利活用 ／ ○ICT活用 ○情報活用能力 ○情報データの利活用	□ 園におけるICTの活用の意義を理解している。 □ 情報モラルや情報機器について基礎的な知識を身に付けている。		□ 教育・保育や園務等で効果的にICTを活用するとともに、直接的体験との関連を考慮し、教育・保育を行っている。 □ 子どもの情報活用能力（情報モラル等）の基礎を育成するための教育・保育実践を行っている。 様々な教育データを蓄積・分析・利活用し、子ども一人一人に応じたきめ細かい指導・支援に生かしている。		
マネジメント力 ／ ○子育て支援	□ 保護者の思いを受容的に聞く。	□ 保護者と、子どもについての情報交換を通して良好な関係を築き、相談しやすい雰囲気を作る。	□ 保護者の不安や悩みに寄り添い、受容的に受け止めながら適切に助言する。 □ 保護者に教育・保育の意図を伝える。	□ 保護者に教育・保育のプロセスや子どもの育ち、学びの価値を伝える。	□ 近隣小学校や地域、保護者に対して、様々な機会や手段を通して子育てに関する情報発信を行う。
○連携・協働		□ 教職員や保護者と協力しながら組織的・継続的に教育・保育活動を行っている。	□ 地域・保護者の思いを受け止めながら、関係機関と連携し、園体制で計画的に教育・保育活動を行っている。		□ 関係機関と連携を深め、保護者・地域を巻き込み、園体制で、計画的・組織的に教育・保育活動を行っている。
○組織マネジメント	□ 組織の一員として、与えられた役割について報告・連絡・相談を行い、対応しようとしている。	□ 担当学年や分掌の仕事を着実に実行し、組織の中で自分の役割を果たしている。	□ 自分の考えを伝えるとともに、相手の立場を理解しながら対応する。 □ 担当学年や分掌の仕事について、PDCAサイクルに基づいて実践する。	□ 担当学年や分掌の主任等として、同僚との合意形成を図り、計画的・組織的に職務を推進する。	□ 若手・中堅教員の適材適所での活用及び指導・育成をする。
○危機管理	□ 危機管理の必要性を理解しようとしている。	□ 園内外の危機を認識し、予防と対策を適切に実施する。 □ 園内外及び非常時の安全管理を適切に行う。		□ 園全体のリスクマネジメント（危機回避）とクライシスマネジメント（危機対応）を意識して取り組む。	□ リスクマネジメントとクライシスマネジメントに関する実施体制を主管し、指導を行う。